

自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(家庭)
／西川 和孝

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

本学は教育大学であり、高度な教職の専門性と教育実践力を身に付けた教員養成を目指すため、以下の科研費申請に向けた研究計画を行う。

- 1) 教育に関する基礎研究として、専門が家庭科食物領域であるため、主に、食品学、栄養学、調理学の基礎研究を実施する。特に、食物に含まれる有用成分の分析と機能性を評価する。
- 2) 教育への応用研究として、上記の研究を基礎として、家庭科食物領域の教材開発を行う。また、開発した教材の効果を確認するため、教育実践を行い、アンケート等によって教育評価を行う。

2. 点検・評価

- 1) 教育に関する基礎研究として、専門が家庭科食物領域であるため、主に、食品学、栄養学、調理学の基礎研究を実施した。特に、食物に含まれる有用成分の分析と機能性を評価し、現在、ショウガの論文投稿の準備をしている。
- 2) 教育への応用研究として、上記の研究を基礎として、家庭科食物領域の教材開発を行った。また、開発した教材の効果を確認するため、教育実践を行い、アンケート等によって教育評価を行った。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

家庭科コースの学生定員充足に向けて、以下の取り組みを行う。

- 1) 本学の学部生(4年生)に対し、本学大学院への進学勧誘を行う。
- 2) 他大学の学部生(4年生)に対し、本学大学院への進学勧誘を行う。
- 3) 現在、非常勤をしている大学に依頼する。
- 4) 家庭科コースのHPを充実させる。
- 5) 他大学へ大学院募集要項、パンフレット等を送付する。

2. 点検・評価

家庭科コースの学生定員充足に向けて、以下の取り組みを行った。

- 1) 家庭科コースの学部4年生8人全員が教員採用試験の1次試験に合格し、6人が最終試験に合格した。不合格者2名のうち、1名が附属小学校の教諭に採用され、1名が本学大学院に進学した。
最終的に家庭科コースの学部4年生の8名中7名(小学校5名、中学校1名、高等学校1名)が教諭として採用され、1名が本学大学院に進学した。
- 2) 副学長の代理で、大阪の摂南大学に訪問し、学部生(10名)に対し本学大学院説明会を実施し、進学の勧誘を行った(10月18日)。その結果、摂南大学から中期選抜試験で1名、後期選抜試験で1名が本学大学院を受験した。
- 3) 現在、非常勤をしている神戸女子大学にて、本学大学院への進学の勧誘を行った。
- 4) 家庭科コースのHPを一部充実した(コース紹介の動画を含む)。また、大学院入試委員であるため、大学院ガイドブック2014の家庭科コース分の取りまとめを行った。
- 5) 他大学へ大学院募集要項、パンフレット等を送付した。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- 1) 「自立と共生」という基本概念と「実践的・体験的授業」という教育の基本方針を堅持し、学生の指導にあたる。
- 2) 学部1年生から担当する授業科目等を通して教職への動機付けを行う。
- 3) 担当する講義、実験科目等の授業評価を実施する。その際、シラバスに添った成績評価を実施し、第3者にも説明できるような評価を行う。
- 4) 実験、実習科目は安全が最も重要であるため、事故のないよう十分留意する。
- 5) 卒論、修論のテーマや指導に当たっては、学生の希望を優先する。

2. 点検・評価

- 1) 「自立と共生」という基本概念と「実践的・体験的授業」という教育の基本方針を堅持し、学生の指導にあたった。
- 2) 学部1年生から担当する授業科目等を通して教職への動機付けを行った。
- 3) 担当する講義、実験科目等の授業評価を実施した。その際、シラバスに添った成績評価を実施し、第3者にも説明できるような評価を行った。
- 4) 実験、実習科目は安全が最も重要であるため、事故のないよう十分留意し、実施した。
- 5) 卒論、修論のテーマや指導に当たっては、学生の希望を優先して実施した。

II-2. 研究

1. 目標・計画

- 1) 基礎的な研究だけでなく、教育実践に役立つ研究を行う。
- 2) 民間や法人からの外部資金を獲得するため積極的に応募する。
- 3) 科学研究費補助金に申請を行う。
- 4) 学術論文(少なくとも1報)を投稿する。
- 5) 研究成果を学会にて発表する。

2. 点検・評価

- 1) 基礎的な研究だけでなく、教育実践に役立つ研究を行った。
- 2) 民間や法人からの外部資金を獲得するため積極的に応募した(日本学術振興会のRPDに申請)。
- 3) 科学研究費補助金(基盤研究C)に申請を行った。
- 4) 学術論文(1報)を投稿した。
- 5) 研究成果を学会にて発表した(第64回日本家政学会にて研究発表)。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

- 1) 学内の各種委員会に出席し、職務を遂行する(大学院入試委員、安全管理委員、知的財産室会議委員会等)。加えて、病気等で休まれる先生の代理出席を積極的に行う。
- 2) コース会議、部会議を通じて問題点や提案をコース長、部長に行う。

2. 点検・評価

- 1) 学内の各種委員会に出席し、職務を遂行している(大学院入試委員、安全管理委員、知的財産室会議委員会等)。加えて、病気等で休まれる先生の代理出席を積極的に行った。
また、代理で摂南大学に訪問し、本学大学院説明会を実施した。
- 2) コース会議、部会議を通じて問題点や提案をコース長、部長に行った。
- 3) 「教員養成モデルカリキュラムの発展的研究」の第1回シンポジウム(2月8日大阪)に出席し、第2回シンポジウム(3月24日東京)で発表し、討論者としても参加した。
- 4) 四国共同機構の設置に向けたワーキング・グループに本学のから加わり、協力している。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- 1) 附属小学校教員、附属中学校教員と連携・協力する。
- 2) 研修会等にて、大学院への入学を呼びかける。
- 3) 外国人研究者、留学生の希望者があれば受け入れる。

2. 点検・評価

- 1) 附属小学校教員、附属中学校教員と連携・協力した。
- 2) 研修会等にて、大学院への入学を呼びかけた。平成24年度教員免許状更新講習を実施し、大学院への入学を勧誘した(8月3日)。
- 3) タイのシーナカリンウィロート大学からの外国人留学生を受け入れた(9月下旬に帰国した)。
- 4) 韓国の京仁教育大学校や附設初等学校に行き、家庭科教員(実科教員)らとの国際交流した(9月15-18日)。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

タイのシーナカリンウィロート大学からの外国人留学生を受け入れた。
平成24年度教員免許更新講習を8月3日に実施した。
副学長の代理で摂南大学に訪問し、本学大学院説明会を実施した(10月18日)。その結果、摂南大学から中期選抜試験で1名、後期選抜試験で1名が本学大学院を受験した。
家庭科コースの学部4年生の8名中7名(小学校5名、中学校1名、高等学校1名)が教諭として採用され、1名が本学大学院に進学した。
「教員養成モデルカリキュラムの発展的研究」の第1回シンポジウム(2月8日大阪)に出席し、第2回シンポジウム(3月24日東京)で発表し、討論者としても参加した。
四国共同機構の設置に向けたワーキング・グループに本学のから加わり、協力している。
韓国の京仁教育大学校や附設初等学校に行き、家庭科教員(実科教員)らとの国際交流した(9月15-18日)。